

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370158

研究課題名(和文) 移動の映像政治学—人種と社会的公正をめぐるテクノロジー

研究課題名(英文) A Research on the Politics of Migration in Digital Media and the Image: Technology of Race and Social Equality

研究代表者

清水 知子 (SHIMIZU, Tomoko)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：00334847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人種の表象と社会的公正について考察し、戦争、テロリズムが次々と勃発する現代社会における「公共性」をトランスナショナルな視点から構想し新たに構築する可能性を模索するものである。とりわけ、デジタルメディアを用いた映像の製作と流通に目を向け、トランスナショナルな視点から人種とそのイメージを探究する新しい展開であり、研究成果は以下の二つの次元からなる。(1)人種と公共性をめぐる理論の再考と刷新、(2)デジタルメディア時代における映像によるエスノグラフィの可能性、具体的にはインディペンデント系映画、アーティストによる映像作品の考察、制作者および視聴者、鑑賞者へのインタビューを通じた実証研究。

研究成果の概要(英文)：This study investigates possible correlation between media culture and publicness in this global era from transnational view points. The project consists in the following two dimensions. First, theoretical research on media and film image and the archives based on sociology and cultural studies. Second, construction of new publicness in the racial and ethnic conflicts in this global era. As a result, we examined the new cultural practices and the politics, analyzing contemporary media and art situations (interview with art and film directors, analysis on production style, representation and the reception of media and artwork in transnational ways), and reconsidered the theory of democracy in this global migration era.

研究分野：比較文学・文化理論

キーワード：人種 映像 多文化主義 民主主義 公共性 メディア 芸術 宗教

1. 研究開始当初の背景

本研究は移動、移住の経験がこれまでになく多様化し、さまざまな摩擦を生みだしている現代社会の諸問題を構造的に分析し、新たな公共性について映像という語りの可能性を軸に考察するものである。本プロジェクトを開始する以前、研究代表者は欧米の人種およびメディア文化に関する理論的な研究に着手してきた。また共同研究者は欧州及び東アジアにおいて多くの映画祭を開催し、多層的なアイデンティティをもつ人々の映像文化を紹介するとともに、映画研究者として自ら数々の映像分析を手がけながらトランスナショナルな公共圏を考える創造的な場として映画の可能性を模索してきた。本研究はこれまでの二人の研究と実践を出発点とし、従来の国民国家を基盤とした公共性では捉えきれない価値観や認識の仕方を明らかにしながら、人種、宗教をはじめとした文化的な他者との新たな共同性を映像というメディアを通して模索するものである。

2. 研究の目的

本研究はグローバル化と新自由主義が浸透した現代社会における映像文化のあり方を考察することで、新たな公共性を創出する可能性を模索するものである。本研究において設定された目的は次の二点にまとめられる。

(1) 従来の欧米において展開されてきた移民、難民、多文化社会に関する理論的な議論を精査し、多文化社会と映像メディアにおける人種と公共性について、これまでの研究動向を踏まえたうえで現状にかなう理論的刷新を探究し提示する。

(2) 東アジアにおける人種をめぐる表象及び言説を日本はどのように受容してきたのか。日米韓におけるその実態を調査し相互の関係性とその問題および課題を明らかにする。

とりわけ欧米に関しては、本研究期間に欧米ではシャルリ・エブド事件、パリ同時テロ事件が起こり、移民、難民をめぐる文化状況と議論も大きく変化した。一方、日本及びアジアでは韓流、嫌韓流、ヘイトスピーチの激化といった事態に至り多くの問題が改めて浮かび上がった。本研究はこうした事態を踏まえ、現状分析と理論的な刷新を試みながら研究に着手することになった。

3. 研究の方法

本研究では調査を以下の三つの次元から実施した。

(1) 従来の人種、エスニシティをはじめとする他者イメージの形成と変容に関する理論的考察を整理し、現状を踏まえて新たな公共性をめぐる構想を構築した。

(2) デジタルメディア時代の映像とエスノグラフィをめぐる表象分析と製作及び受容のインタビュー調査の国際比較研究を实

施した。これについて映画祭及び国際シンポジウムの開催、及び映画監督、政府機関へのインタビュー調査を数回実施した。

(3) ハリウッドを中心としたグローバルなメディア文化における北朝鮮イメージを分析し、自国、相手国、関連諸国における他者ないし敵のイメージ形成、拡大再生産される構造について文献資料及びインタビュー調査をもとに考察した。これについては米国、英国、日本、韓国、インドネシアにおいて国際学会、研究会、講演での発表、および意見交換を行い、また収集した歴史資料をもとに考察を試みた。

4. 研究成果

本研究では第一に人種及びエスニシティに関する国際的な多文化状況についてトランスナショナルな視点からの知見を得た。第二に欧州及び東アジアにおける人種、エスニシティをめぐる他者イメージの形成、拡大再生産される構造、それに抗するイメージの生成を実証的に比較研究することで、日本の政治、文化状況への含意を検討した。その成果については、以下「5 主な発表論文等」に記載したとおり国内外の学会において27件の発表を、論文6本、著書12件を、英語、あるいは日本語、韓国語で発表した。その他に2014年7月19日には韓国から映画監督を招聘し、トランスナショナル映画に関する講演会「共生社会における日韓若者の歴史認識と新たなアイデンティティ」(立教大学)を開催し活発な意見交換を行うことができた。以上を通して、1) 欧米における人種から宗教的他者、とりわけイスラムをめぐる公共圏とデモクラシーの問題を再考し現代社会が直面している新たな問題の構造を明らかにした。具体的にはシャルリ・エブド事件、欧州の難民問題をはじめとする出来事を、社会と関与するアーティストらの実践を通して検証していった。また理論的には、ユルゲン・ハーバーマス、チャールズ・テイラー、ジュディス・バトラー、エチエンヌ・バリバル、エマニュエル・トッドらの公共性とデモクラシーをめぐる議論の可能性と陥穽を明らかにした。2) 東アジアにおける韓流文化のその後の展開と嫌韓流、ヘイトスピーチについて調査し、トランスナショナルなアジア文化の変容と新たな潮流について分析した。3) 現代の米国メディアにおける北朝鮮のイメージについて考察した。北朝鮮のイメージは、冷戦時代には反共戦争映画においてもそれほど強調されなかったが、冷戦体制崩壊後、グローバルな政治経済体制が再編されるなかで北朝鮮イメージは大きく再編され、とりわけ2000年代以降、映像文化のなかで急速に世界の平和を脅かす敵として描き出されていることがわかった。その背後にはハリウッドによる商業的利益の追求という経済的な論理のみならず、米国、西欧の人種主義、とりわけアジアの男性と女性に対す

る偏向が見られることを、欧州及び東アジア、南米社会で政策された映画との比較、監督、制作会社、配給業者らのインタビューを通じて明らかにした。4) 商業映画とは異なる、インディペンデント作家の映像作品による人種的、宗教的な他者イメージの生成、生産と再生産、その受容について調査した。その結果、21世紀のテロ、戦争、他者との共生をめぐる諸問題について、巨大な娯楽メディアよりも、むしろ現代アートのドキュメンタリー映像作品や参加型アート、地域アートの増大を通して、従来とは異なるかたちで新たな公共圏とデモクラシーをめぐる問題が提起され、議論が展開しつつあることが明らかになった。トランスナショナルかつインディペンデントなかたちで制作されることで、これまでのナショナルな枠組みを超えた視点から作品が生み出され、従来の社会では可視化されることのなかった人々の声や生活から人種と社会的公正をめぐる視座が提起されるようになっていくことがわかった。ただし、そのような作品は現在の公的な場において検閲、自主規制の問題とぶつかることが多い。今後は、そのようなかたちで顕在化されつつある「表現の自由」をめぐる議論（およびその国家間の違い）についてより深く問い直しながら精査していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

李香鎮、Cinematic Memories of 'Comfort Women': From My Own Breathing to Sprit's Homecoming、The Review of Northeast Asian Studies、2016、印刷中、査読無

李香鎮、Theory of Kim Kiduk and Transnational Korean Cinema、Cultura、41巻、2016、印刷中、査読無

清水知子、この人を見よ、ユリイカ、2016年4月、202-208、査読無

清水知子、「作者の死」をめぐる断章、すばる、査読無、2016年2月、172-174

清水知子、「制御」と新しい唯物論の行方(書評)表象、9巻、2015、250-252、査読無

清水知子、アニメーション・ドキュメンタリーの地平、アニメーション学会機関誌、16巻、2014、3-4、査読無

[学会発表](計27件)

Tomoko Shimizu、The Work of Media Art in the Age of the Refugee、London Film and Media、London University(ロンドン、イ

ギリス)2016年7月7-9日

Hyangjin Lee、A Genealogy of Anti-Communist Film in South Korea: Representing and Imagining Cold War、Kim Koo Forum on Korea Current Affairs、Harvard University(ボストン、アメリカ)、2016年4月30日

Hyangjin Lee、Eat, Drink and Love Korea in Post-Cool Japan: A Cinematic Approach、Invited Lecture、Wellesley College(ウェルズリー、アメリカ)、2016年4月17日

Hyangjin Lee、Korean Wave in Asia and beyond、Invited Lecture、2016年4月15日、MIT Cambridge(ボストン、アメリカ)

Hyangjin Lee、Korean Wave and Hate Speech in Japan、Harvard Korean Fellow Society、2016年4月4日、Harvard University(ボストン、アメリカ)

Hyangjin Lee、Cinematic Memories of Cold War and the Images of North Korea、North Korea University Graduate School、North Korea University(ソウル、韓国)、2015年10月30日

Hyangjin Lee、Hollywood and Terrorism: North Korea, an Axis of Evil from a perspective of Global Cultural Industry、Invited Speech、Yonsei University The Graduate School of Information & Industrial Engineering(ソウル、韓国)、2015年9月11日

Hyangjin Lee、North Korea in America: The Cultural Consumption of Evil、Inter Asia Cultural Studies、Airlangga University(スラバヤ、インドネシア)、2015年8月8日

Tomoko Shimizu、Re-thinking "The Intolerable Image"、Inter Asia Cultural Studies、Airlangga University(スラバヤ、インドネシア)、2015年8月8日

Tomoko Shimizu、The Philosophy of 'Free Radio/Media Movement' in Japan in the Post-Media Era、Keep It Simple, Make IT Fast!、Casa da Musica(ポルト、ポルトガル)、2015年7月17日

Hyangjin Lee、A Very British Passion: The Marketing, Distribution and Reception of Korean Cinema in the UK、The 20th Busan International Film Festival Forum、CC Conference Room(釜山、韓国)、2015

年 7 月 7-9 日

Hyangjin Lee, A Theory of Violence by Kim Kiduk: The Representing of Social Outcasts in Contemporary Korean Cinema for a Global Audience, The 20th Busan International Film Festival Forum, CC Conference Room (釜山、韓国), 2015 年 7 月 7-9 日

Hyangjin Lee, The Korean Comfort Women on Film, Transnational Cinema Study Day, Showroom Sheffield (シェフィールド、イギリス), 2015 年 6 月 20 日

Hyangjin Lee, The Cold War on Film, The Korea Society, The Korea Society 950 Third Avenue, 8th Floor (ニューヨーク、アメリカ), 2015 年 6 月 8 日

清水知子、クリエイティブ・シティの生態学 現代アートにおける「関係性の美学」と「オルターモダン」の行方、日本英文学会、立正大学品川キャンパス(東京都品川区) 2015 年 5 月 23 日

Hyangjin Lee, Digital Love in Hallyu Cinema, New Media and Korean Cinemas (招聘講演) KAIST(テジョン、韓国), 2014 年 11 月 10 日

李香鎮、東アジア伝統演劇とメロドラマ映画の諸相(コメンテーター)、環日本海の文化交流、日本学術会議第一部、石川県政記念しいのき迎賓館(石川県、金沢市), 2014 年 8 月 3 日

Hyangjin Lee, Korean Cinema and Transnationality: Family, Death and the Wonhon in Four Films of the 1960s, The 2014 Yonsei Summer Conference (ソウル、韓国), 2014 年 7 月 12-13 日

Hyangjin Lee, *Hallyu* Obasan: The Unlikely Political Heroes of Japan, Crosscurrents of the Korean Wave II, Ehwa Womans University(ソウル、韓国), 2014 年 5 月 30-31 日

Hyangjin Lee, The Korean Wave: a Culture of Resistance for Global Minorities', Keynote Speech, The Cultural Geography of the *Hallyu*: Mapping the World through Korean Popular Culture, Hebrew University of Jerusalem (エルサレム、イスラエル), 2014 年 5 月 13-15 日

②① Hyangjin Lee, Imagining Home and omeless in *Zainichi* Cinema, Keimyung International Symposium on Korean

Studies, Keimyung University (デグ、韓国)、2013 年 10 月 31 日-11 月 2 日

②② Hyangjin Lee, The Korean Wave in the Post-Cool Japan, Ehwa Womans University, The Research Institute of Korean Culture (ソウル、韓国), 2013 年 10 月 16 日

②③ Hyangjin Lee, Film for Children, The 1st Seoul International Children Film Festival Workshop, Kuro Art Valley Theatre (ソウル、韓国)、2013 年 10 月 11 日

②④ 清水知子、ディズニーと SF 的想像力、日本 SF 大会、アステールプラザ(広島県広島市、2013 年 7 月 20-21 日

②⑤ Hyangjin Lee, The Identity Politics of Zainichi Film: Inter-ethnicity, Nationhood and Masculinity, The 2013 Korean Studies in Europe(ウィーン、オーストリア), 2013 年 7 月 6-9 日

②⑥ Tomoko Shimizu, The Logic of Fashion and Art in the Age of Post-Cool Japan, The Inter-Asia Cultural Studies Society(シンガポール、シンガポール), 2013 年 7 月 3-5 日

②⑦ Hyangjin Lee, Eat, Drink and Love Korea in Post-Cool Japan: From Reel to Real, The Inter-Asia Cultural Studies Society (シンガポール、シンガポール), 2013 年 7 月 3-5 日

〔図書〕(計 12 件)

清水知子、地域アート 美学 / 制度 / 日本、堀之内出版、2016 年、452 (217-255 頁を執筆)

清水知子、21 世紀の哲学をひらく、ミネルヴァ書房、2016 年、290 (215-228 頁を執筆)

清水知子、想像力を越境させる(仮)、青弓社、2016 年、印刷中(分担執筆)

清水知子、帝国と文化、春風社、2016 年、印刷中(分担執筆)

李香鎮、韓日交流とネットワーク、明石出版、2016 年、印刷中(分担執筆)

Hyangjin Lee, Hawaii University Press, Divided Lenses: Screen Memories of War in East Asia, Hawaii, 2016 年、340 (62-73 頁を執筆)

清水知子、労働と思想、堀之内出版、2015、512 (分担執筆)

清水知子、よくわかるメディア・スタディ

ーズ第二版、2015、240 (分担執筆)

Lee Hyangjin、Divided Lenses: Film and War Memories in Asia 2014

清水知子、文化と暴力-揺曳するユニオンジャック、月曜社、2013

Lee Hyangjin、Critical Readings on Ethnic Minorities and Multiculturalism in Japan vol3、2013

Lee Hyangjin、Korean Horror Cinema、2013

6 . 研究組織

(1)研究代表者

清水 知子 (SHIMIZU, Tomoko)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号 : 0 0 3 3 4 8 4 7

(2)研究分担者

李 香鎮 (LEE, Hyangjin)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号 : 8 0 5 3 5 9 6 4